

＜目指すべき姿(目標・成果)＞

- 目標:管内の教育旅行者入込数 震災前の水準7万6千人(現状 平成25年度:4万3千人)
- 目標:管内の観光客入込数 震災前の水準373万人(現状 平成26年:295万人)

＜管内の現状＞

教育旅行者については、未だ震災前の6割しか戻っていない。

鉄道からの二次交通手段が整備されておらず広域観光が行いにくい。

自然環境を保護・保全しつつ、持続可能な形で活用できる取組を推進していく必要がある。

当地域は、人口減少率及び高齢化率ともに高く、県内で最も高齢・過疎化が進行している。

＜管内の課題＞

教育旅行の震災前までの回復が必要。

広域観光による誘客を促進するため、鉄道からのバス・タクシー等による広域二次交通を備えた商品の造成が必要。

ユネスコエコパークの登録を契機に当地の優れた自然資源、文化等の地域活性化への活用、内外への情報発信が必要。

南会津地域への移住者の受入を推進するため、受入体制の整備に向けた支援や、移住希望者の掘り起しが必要。

①地域経営分

＜H27事業の計画＞

事業名:「おいでよ!南会津。」自然環境学びの首都づくり事業(事業費50,000千円)

【目的】

平成26年6月の只見ユネスコエコパークの登録を絶好の契機ととらえ、尾瀬や駒止湿原等の豊かな自然を最大限活用し、南会津郡全域を自然環境学習の拠点とするとともに、教育旅行の回復や風評の払拭を目指す。

【事業概要】

- ・環境学習の費用助成(管内4町村内で宿泊し、自然ガイドによる質の高い環境学習を行い管内に宿泊する県内外の小中高等学校に対し、①宿泊費5,000円/名、②バス代140,000円/台、③ガイド料20,000円/ガイド1名等を助成)
- ・受入体制の整備(自然環境学習テキストの作成、地元ガイド養成のための研修会開催、学校等への誘致活動)

【ねらい】

- ・県内外の多くの児童生徒に来てもらい、本県の現状を正しく理解し、南会津地域の魅力を体感してもらうことで、風評の払拭とともに、南会津地域のファンの拡大を図る。(リピーターの確保、県内学生の本県への愛着や誇りの醸成)
- ・宿泊業者をはじめとした裾野の広い域内産業の振興を図る。

【効果】

- ①高いインセンティブにより県内外からの南会津への教育旅行が増加
- ②助成事業が終了しても南会津の良さを知った学生がリピーターとして南会津へ再訪



尾瀬(檜枝岐村)

②過疎・中山間連携事業

事業名:定住・二地域居住促進事業

・町村や関係団体等で支援協議会を設立し、地域ぐるみで受入体制の整備を推進する。



田舎ぐらしセミナー

③一般枠(民間等)

事業名:南会津二次交通対策事業

・観光関係団体等が協働して二次交通商品を造成し、南会津管内への誘客を図る取り組みを支援する。



二次交通商品チラシ

④市町村枠

事業名:ユネスコエコパーク推進事業

・エコパークに関連し環境学習充実のための只見観察の森整備や、ブナセンター独自企画等の取組を支援する。



恵みの森(只見町)